

福島 統^{*2}

1. 医学教育振興財団

2014年版医学教育振興財団の活動について、2010年版以降を中心に報告する。

医学教育振興財団は、1979年（昭和54年）に当時の文部省の認可により設立された財団法人であり、わが国の医学教育を担当する全医科大学・医学部（80校）で組織する医学教育の改善向上を目指す団体である。発足当時の寄附行為第3条に、「日本ならびに諸外国の医学教育（卒後の臨床研修を含む）の方向と実情に関し、不断の調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供するなど、日本における医学教育の充実向上について寄与し、もって医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的とする」と規定している。

2008年の公益法人制度改革3法施行に伴い、2013年4月1日に、公益財団法人として内閣総理大臣から認定を受けた。公益財団法人移行に当たり、平成8年9月から理事長であった高久史磨氏に代わり、小川秀興氏が理事長に就任した。公益財団法人移行後も目的には変更がなく、事業も引き継いでおり、定款に次のとおり規定している。(1)医学教育に関する調査、研究及び資料の収集並びにその成果の医学教育機関に対する提供、(2)医学教育の方法の研究に対する助成、(3)医学教育機関の教職員及び学生に対する研修の実施及び援助、(4)医学教育資料の発行等医学教育機関から委託された事業、(5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業。これらの事業遂行のために、運営委員会、英国短期留学選考委員会、審査委員会を常置している。

2. 公益財団法人 医学教育振興財団の役員（平成25年4月1日現在）

理 事 長	小川秀興（順天堂大学理事長）
常 務 理 事	跡見 裕（杏林大学学長）
	福島 統（東京慈恵会医科大学教育センター長）
理 事	大戸 斉（福島県立医科大学医学部長）
	赫 彰郎（日本医科大学理事長）
	中村 達（浜松医科大学学長）
	森 望（香川大学医学部長）
	吉岡俊正（東京女子医科大学理事長）
監 事	冲永佳史（帝京大学理事長・学長）
	宮崎俊一（東京女子医科大学名誉教授）
評 議 員	大谷 浩（島根大学医学部長）
	川崎明德（川崎学園理事長）
	紀伊國献三（笹川記念保健協力財団会長）
	栗原 敏（東京慈恵会医科大学理事長）
	黒木由夫（札幌医科大学医学部長）
	高久史磨（日本医学会会長）
	福井次矢（聖路加国際病院院長）
	福田康一郎（医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長）
	宮園浩平（東京大学医学系研究科長）
	山下敏夫（関西医科大学理事長・学長）
参 与	佐藤國雄（聖路加国際病院理事）

^{*1} Japan Medical Education Foundation

^{*2} Osamu Fukushima（公財）医学教育振興財団常務理事／東京慈恵会医科大学教育センター

表1 医学教育指導者フォーラム

日時	会場	主題	講者	演題	総合討論司会
第22回 2010年 7月27日	東京慈恵会 医科大学	Outcome-based Undergraduate Medical Education	Ronald M. Harden General Secretary, Association for Medical Education in Europe Jason R. Frank Associate Director, Office of Education, Royal College of Physicians and Surgeons of Canada 田邊政裕 千葉大学大学院医学研究院 医学教育研究室教授	8 Myths about Outcome-Based Education: the ostrich, the peacock and the beaver Is the Future of Medical Education Competency-based? Lessons from CanMEDS 医学部における学習成果基盤型教育 (Outcome-Based Education in Medicine) - 千葉大学の取組み -	神津忠彦 東京女子医科大学 名誉教授
第23回 2011年 7月26日	東京慈恵会 医科大学	医学教育とヒューマニティ -プロフェッショナルイズム の教育 - Medical Education and Humanity -Teaching Professionalism- 医学生の問題行動と支援策 -Nurturing Medical Students' Fitness to Practise-	Darrell G. Kirch President and CEO, Association of American Medical Colleges Richard L. Cruess Former Dean of Faculty of Medicine, McGill University, Canada James H. McKillop Chair of the Undergraduate Board of the General Medical Council, UK / Emeritus Professor of Medicine, University of Glasgow Timothy J. David Professor of Child Health & Paediatrics, Manchester Medical School, University of Manchester, UK	A New Model for American Medical Education Teaching Medical Professionalism - From Theory to Practice	桃井眞里子 自治医科大学 医学部長
第24回 2012年 7月24日	東京慈恵会 医科大学	医学教育の分野別質保証 -なぜ世界基準での認証 が求められるのか -Quality Assurance in Basic Medical Education-	John J. Norcini President and CEO, Foundation for Advancement of International Medical Education and Research (FAIMER) Sean Hilton Emeritus Professor at St. George's, University of London, UK	Undergraduate Medical Education: Professionalism and Fitness to Practise- The UK Approach Student Fitness to Practise: the Prevention, Investigation and Handling of Serious Behaviour and Health Problems	北村 聖 東京大学医学教育 国際協力研究セン ター 教授
第25回 2013年 7月23日	東京慈恵会 医科大学			Quality Assurance in Medical Education Quality Assurance of Medical Education in the UK	福島 統 東京慈恵会医科大 学 教授 / 教育セ ンター長

表2 国内医科大学視察と討論の会

	日時	大学	講演主題
第30回	2010年 9月 16・17日	島根大学医学部	特別講演①「文部科学省における医療人材養成の取り組み」 新木 一弘 1. 地域医療人をを目指す学生の教育システム ―入試から卒業研修まで― 2. 地域医療病院実習の展開と効果 3. 学生と教員の海外研修 ―ポスト WWAMI プログラムに向けて― 4. 医学教育における自治体組織との連携 学生との懇談 特別講演②「大学院定員充足率を上げる試み 一多角的な視察と課題」 大谷 浩 総合討論
第31回	2011年 9月 15・16日	名古屋市立大学医学部	特別講演①「医学教育の現状と課題」 村田 善則 1. 医・薬・看護学部連携地域参加型学習 2. 大学における総合診療能力の育成 3. 周産期医療・新生児医療に重点を置いたシミュレーションセンターにおける教育 4. 新しい教育法の展開 TBL、ピア評価、双方向教育 学生との懇談 特別講演②「名古屋市立大学における医学教育改革の歩みと世界標準への試み」 横山 信治 総合討論
第32回	2012年 9月 20・21日	昭和大学医学部	特別講演①「医学教育の現状と課題」 村田 善則 1. いま求められる全寮制教育 2. 体系的・段階的な4学部連携教育 3. 国際交流のすすめ 4. フォローアップ型地域医療実習 学生との懇談 特別講演②「全寮制・医系総合大学の利点を生かした先進的医学教育」 高木 康 総合討論
第33回	2013年 9月 19・20日	鹿児島大学医学部	特別講演①「医学教育の現状と課題」 平子 哲夫 1. 学士編入学制度の意義 2. 患者・医療職・地域との連携による臨床実習前教育 3. 地域枠医学生への教育の取り組み 4. 医学生の国際交流とその成果 学生との懇談 特別講演②「島嶼地域を活用した地域医療教育」 嶺崎 俊郎 総合討論

3. 医学教育指導者フォーラム（表1）

1987年から行っている、第22回（2010年）から第25回（2013年）の医学教育指導者フォーラムの概要を表1に示す。医学教育指導者フォーラムの趣旨は、「大学医学部における医学教育の改善ならびに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任のある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換並びに討論を行う」である。

主題としてアウトカム基盤型医学教育、プロフェッショナルリズム教育、医学生の問題行動と支援策、医学教育の分野別質保証と、極めて重要な

話題を取り上げている。第25回を例にフォーラムの流れを説明する。主題「医学教育の分野別質保証」に関して米国と英国の演者からの基調講演がある。この講演はそれぞれ1時間であるが、その後にはフロア討論が40分組まれ、活発な質疑応答が展開される。次に国内から4名の演者の話題提供があり、外国人演者を加え1時間半近くのプロア討論となる。ほぼ1日をかけ、主題について海外の情報と国内での先導的活動が紹介されるので、参加者はこの主題についてじっくりと学ぶことができる。翌日には文部科学省が主催する「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」があり、医学教育の課題について国内医学部間での

表3 英国医学部・医科大学における臨床実習のための短期留学生の派遣

		応募学生数	受け入れ先	人数
2010 年度	第 22 回目	48	Newcastle 大学医学部	4
			Southampton 大学医学部	4
			London 大学 St George's 校医学部	4
			Peninsula 医科歯科大学医学部	6
			Oxford 大学医学部	2
2011 年度	第 23 回目	43	Newcastle 大学医学部	4
			Southampton 大学医学部	4
			London 大学 St George's 校医学部	4
			Peninsula 医科歯科大学医学部	6
			Oxford 大学医学部	2
2012 年度	第 24 回目	50	Newcastle 大学医学部	4
			Southampton 大学医学部	4
			London 大学 St George's 校医学部	4
			Peninsula 医科歯科大学医学部	6
			Oxford 大学医学部	2
2013 年度	第 25 回目	56	Newcastle 大学医学部	4
			Southampton 大学医学部	4
			London 大学 St George's 校医学部	4
			Peninsula 医科歯科大学医学部	6
			Oxford 大学医学部	2

経験共有の場となっている。

4. 国内医科大学視察と討論の会（表2）

1981 年から行っている。毎年、全国医科大学・医学部から 1 校を選び（地域、国公立を考慮）、全国の医学部教員が 2 日間にわたり視察とその医学部が行っている教育についての討論を行うものである。視察を受ける大学の学生もプログラムの一部に参加し、学生と教職員が他大学の見学者と一体となって、その医学部の Good Practice の経験を共有する。毎回 100 名を超える参加者がある。表2に第 30 回から第 33 回までの視察校とその医学部で行われている Good Practice（講演主題）を示す。この活動は、全国 80 医学部が行う自主的 Peer review であり、医学部自らが自己改善のために行っている活動と言える。

5. 英国大学医学部における臨床実習のための短期留学生の派遣（表3）

この短期留学制度は 1990 年から始まった（Newcastle と Leicester にそれぞれ 4 名合計 8 名派遣）。このプログラムの始まりについて、医学教育白書 1990 年版に西園先生が、医学教育講演会、指導者セミナーの項に書かれている。「89 年は 1 月 17 日、18 日に行い、講演会はイギリスの GMC を代表して、レスター大学医学部の R. キルパトリック博士、ニューキャッスルアポンタイン大学卒後教育部長 J. アンダーソン博士による講演があった。この席上で、卒前教育の両国の比較が話題となり、臨床実習の質の違い、すなわち、患者を対象とした実物教育をどこまで体験させるかが問題となった。両講師の好意で、英国での臨床実習をわが国の学生に体験させることとなり、1990 年 3 月には 8 名の医学生が両大学に短期留

表 4 懸田賞受賞者

2010 年度	第 17 号	錦織 宏	東京大学医学教育国際協力研究センター
2011 年度	第 18 号	小林 志津子	東京医科大学医学教育学講座
2012 年度	第 19 号	西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター
2013 年度	第 20 号	津川 友介	ハーバード大学大学院

表 5 医学教育研究助成（2002 年以降）

年度	研究助成 応募件数	助成研究テーマ	研究代表者
2002 年度～2008 年度は応募なし			
2009 年度	8 件	「医学教育機関国際認証評価基準の日本での適合についての調査研究」	吉岡 俊正（東京女子医科大学教授）
		「カリキュラムベースの外科教育システムの構築」	アラン・レフォー（自治医科大学教授）
		「日本における医学生海外臨床実習のカリキュラムおよび学習アウトカムに関する調査研究」	錦織 宏（東京大学医学教育国際協力研究センター講師）
2010 年度	10 件	「臨床研究の適正な促進のための研究倫理教育プログラムの開発と普及に関する研究」	松井 健志（東京大学大学院医学系研究科グローバル COE プログラム特任講師）
		「臨床研修指導医を対象とした Teaching 評価表の開発に関する研究」	小泉 俊三（佐賀大学医学部附属病院教授）
		「研修医を成長させる指導医の面談スキル・プログラム構築に関する探索的研究」	西城 卓也（名古屋大学医学部附属病院助教）
		「卒前医学教育および卒後臨床研修における医療安全に関する習得状況についての研究」	原田 賢治（東京大学大学院医学系研究科特任助教）
2011 年度	4 件	「屍体を用いた臨床医のための手術手技・検査手技教育プログラムの開発に関する研究」	鈴木 崇根（千葉大学大学院医学研究院助教）
2012 年度	6 件	「医師のキャリア形成に関するフォローアップ研究－キャリア形成の実態と卒前・卒後の教育的・社会的影響の分析－」	田邊 政裕（千葉大学医学部附属病院教授）
		「臨床指導医評価表試案の信頼性及び構成概念妥当性検証に関する研究」	菊川 誠（九州大学大学院医学研究院助教）
		「Interprofessional PBL を活用した専門職連携教育プログラムの教育効果－質的・量的混合研究－」	前野 貴美（筑波大学医学医療系講師）
2013 年度	6 件	「経済的なバーチャルスライドシステムの開発とその解剖学教育への利用」	駒崎 伸二（埼玉医科大学准教授）
		「SSATS と OSATS による医学生、研修医の Wet Lab 外科手術トレーニング」	野田 雅史（東北大学病院講師）

学することとなった」。現在の 5 医学部 20 名派遣は 2006 年から続いている。短期留学を終えた学

生たちの報告者は、「英国大学医学部での臨床実習のための短期留学 Clinical Elective Attach-

ment」として毎年発刊され、多くの医学生がこの報告書を読み、次の年度の短期留学に応募してくる。英国の医学生が自ら患者のもとに行き実習を行う姿を見て、日本の医学生も参加型臨床実習の経験を積みあげている。

6. 医学教育研究の助成（表4, 5）

本財団初代理事長の懸田克躬先生のご功績を偲び、若い医学教育研究者を表彰することにより、医学教育研究を推進しようと1996年に懸田賞が作られた。懸田先生は1996年3月1日にご逝去になった。その後毎年、日本医学教育学会に候補者の選考を依頼し、選考結果の報告を受けて理事長が決定し、医学教育学会大会の際に本財団から賞状と賞金の授与が行われる。2010年度から2013年の受賞者を表4に示す。

財団は医学教育に関する研究助成金制度を設置

し、原則として毎年、医学教育研究を助成している。助成対象となる研究は、審査委員会で審議され、選定される（公益財団法人移行前の委員会の名称は、研究助成審査委員会）。本白書では、2001年度までの医学教育研究助成を医学教育白書2002年版に載せているが、2002年以降の記録を残していないので、本白書にまとめて記載する。2002年から2008年までは応募者がいない。2009年から2013年までの医学教育研究助成の採択テーマと研究代表者を表5に示す。

7. 刊行物の発行

財団は事業内容をまとめた機関誌『JMEF』をはじめ、国内医科大学視察と討論の会、英国大学医学部での臨床実習のための短期留学、医学教育指導者フォーラム、医学教育を考える会記録などの医学教育関連資料を発刊している。